

「共産党とは、今までずっと戦ってきたんだ。接点がない。こちらに入れてくればありがたいが……」

3日午後、札幌市白石区で開かれた町内会の夏祭り。北海道3区に出馬する民主党の荒井聰・前衆院議員(62)は、同席した共産党市議と言葉を交わすことなく、会場でのあいさつ回りに専念した。

荒井は、共産党票の行方についてのほか関心を寄せている。

荒井は2005年衆院選で、自民党の石崎岳衆院議員(53)に約1万3000票差で敗れ、比例選で復活当選した。07年の道知事選に転出したが落選し、国政復帰を目指している。

2人は4度戦い、小選挙区の戦績は2勝2敗。比例選重

視を掲げる共産党は今回、同区で候補擁立を見送る公算が大きい。共産党候補が前回獲得した約2万3000票のうち、6割が荒井に流れれば石崎を逆転する計算だ。

荒井は5月、自らのブログにこう記した。

「非正規雇用という失業、利益優先の会社経営が労働条件を

悪化させている。なにやらマルクスが資本主義の限界を書いた当時の状況に似ているのではないか」

働いても貧困から抜け出せないワーキングプアの社会問題化、プロレタリア文学「蟹

工船」のブーム……。厳しい雇用情勢が続く北海道では、この1年で共産党員数が700人近く増えているという。

荒井のブログに対し、共産党内では「選挙を見越したエールではないか」との見方が

共産党北海道委員会の青山慶二書記長(53)は、「民主党に政権交代しても政治の中心は変わらない」として、民主党との選挙協力を否定する。しかし、「小選挙区で民主党に入れるという支持者

今年2月、共産党の志位和夫委員長(54)は衆院予算委員会で約50分間にわたって派遣労働の問題点を取り上げた。その映像が動画投稿サイト「ユーチューブ日本版」などに掲載されると、若者を中心に人気を博し、「志位GJ!」(グッジョブ!よくやった!)と若者らしい表現の書き込みが相次いだ。

読めぬ共産票の行方

広がった。

しかし、実際の運動では、共産党支持者に狙いを定めた運動にまでは踏み込めない。「共産党のポスターが張ってある家に『荒井をよろしく』と飛び込む(幹部)のがせいぜいで、運動の中心は自らの従来の支持者固めだ。

◇

共産党の穀田恵二国会対策委員長(61)は、京都1区で自民党の伊吹文明財務相(70)に挑む。穀田は過去4回の小選挙区選で、いずれも伊吹に敗れ、比例で復活当選している。

「鉾脈を振り当てた、という感じだ」。穀田は、雇用や格差問題への共産党の取り組みが若者の支持を得たと強調する。

北海道3区
(札幌市白石・豊平・清田区)



京都1区
(京都市北・上京区など)

読み切れない。

層が逃げてしまう」

共産党支持層が小選挙区でどう動くかは、当の共産党も

「弱き側に立つただけではなく、町づくりを絡めた産業政策を打ち出すなど、共産党の気質を変えなければ、絶対、選挙には勝てない」

(敬称略)